

脳を知り、守り、治す
～臨床神経生理からの挑戦～

京都大学大学院医学研究科臨床神経学 松本理器

脳の世紀と言われ、早くも四半世紀が経過した。21 世紀に入り、ヒトを対象とした脳科学研究が、ミクロ、メゾ、マクロスケールで学際的に行われ、ヒト脳の理解（知る）、機能温存（守る）、病気の治療（治す）が、多いに進歩し、「治る脳神経内科・脳機能外科」を享受できる時代になった。脳の営みは詰まるところ、数百億個もある脳細胞の有機的な電気活動であり、その観点から臨床神経生理は、ヒトを対象とした「正常と病態」のシステム脳科学研究の主流と位置づけられる。電気生理、神経画像、分子イメージングから非侵襲脳刺激まで幅広い研究が我が国、そして世界で進められている。本講演では、“What can we do for the current and future patients using systems neuroscience?”をモットーに進めてきた演者らのグループの知見を中心に、正常（言語機能）と病態（てんかん・認知症）における臨床システム脳科学の知見を紹介し、臨床神経生理学の醍醐味を若手参加者に感じていただきたい。